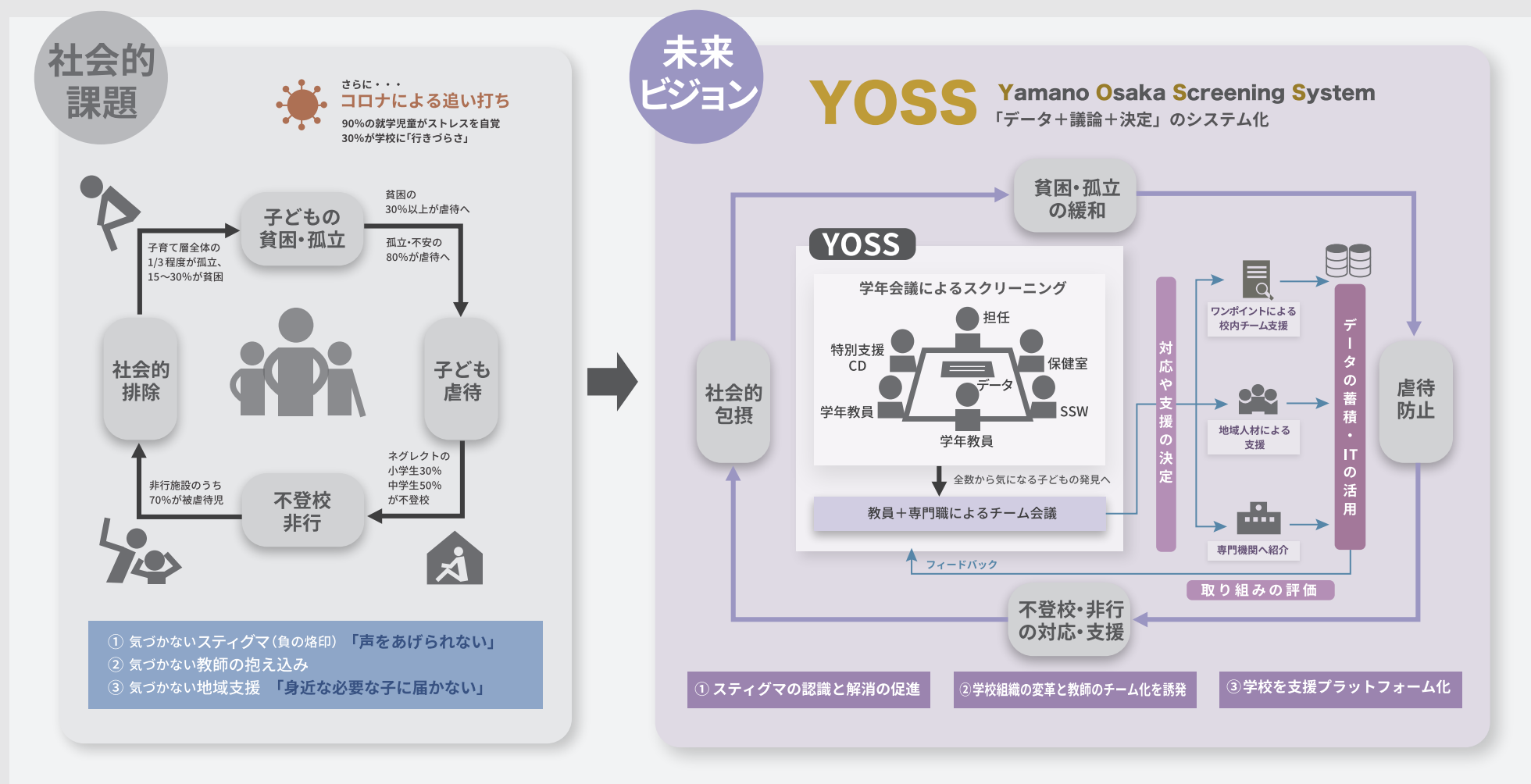


子ども達が健やかに過ごせる未来社会実現の共創拠点

子どもをめぐる問題は、貧困や孤立、虐待、不登校、非行など多岐にわたり、かつ相互に深く影響し、結果として子どもたちの社会的排除を生む。さらにコロナ禍によって、この悪循環に陥るリスクを内在した子どもが爆発的に増加している。誰一人取り残さず、子どもを社会的支援につなげていくために、子どもが声をあげられない、教師が個人で抱え込んでしまう、身近に存在する社会的支援が実際に子どもたちに届かない、という3つの社会的・構造的目詰まりを解消して、子どもをめぐる課題の解決に向けた好循環を生み出すことが求められている。



子ども達が健やかに過ごせる未来社会実現の共創拠点

YOSS(Yamano Osaka Screening System)は、学校を拠点にすべての子どもをスクリーニングにかけて対応や支援が必要な子どもを抽出し、適切な対応や社会的支援につなぐ仕組みである。AIによる判定機能を盛り込み、教師や支援側の能力強化や連携促進機能を系統的に組み込むことで子どもをめぐる社会的セーフティネットを細かくすることを目指す。YOSSは社会福祉学、教育学のみならず、工学、情報学、経営学、評価学など様々な領域の専門知を活用して研究を進め、自治体、民間企業など多様な主体が協働したことで、社会実装にあたっての多くの課題を解決している。今後はさらに総合知を内在化した形でのコンソーシアム設立を予定している。

現在 「総合知」の活用



YOSS

すべての子ども(全数把握)を確認。
些細なリスクを洗い出す。

必要な子どもに方策を決定。

AI機能を活用して発見から支援まで
スムーズに実践。

教育学

福祉学

国の動き

- 2019年～ 文部科学省：虐待対応の手引きにスクリーニング掲載
- 2020年～ 文部科学省：スクリーニングを推奨する通知文
- 2021年～ 文部科学省：YOSSを利用して実証実験開始
- 2022年～ デジタル庁：副大臣 PT「デジタル社会に向けた重点計画」 YOSSを紹介

将来 「総合知」の内在化

YOSSコンソーシアム

